

2014年3月13日 全6頁

Indicators Update

1月機械受注

機械受注は1-3月期も増加を続ける見込み。

経済調査部
エコノミスト 久後 翔太郎

[要約]

- 2014年1月の機械受注統計によると、国内設備投資の先行指標である民需（船舶・電力を除く）は、前月比+13.4%と2ヶ月ぶりに増加し、市場コンセンサス（同+7.1%）を大幅に上回る結果となった。3ヶ月移動平均値で見ても2ヶ月ぶりの増加となっており、前月一時的に減少したものの、機械受注は増加基調にあることが確認された。
- 需要者別に内訳を見ると、製造業は前月比+13.4%と2ヶ月ぶりに増加した。非製造業（船舶・電力を除く）は前月比+12.1%と2ヶ月ぶりに増加した。非製造業では、幅広い業種で前月から増加しており、良好な結果であった。
- 外需は前月比+2.7%と2ヶ月連続で増加した。均して見ると、横ばい圏の動きとなっているが、海外経済の回復に伴い、今後増加基調が明確となる見込みである。
- 大和総研では、機械受注は2014年1-3月期も増加を続けると見ている。製造業、非製造業とも企業業績が明確に改善していることや、稼働率が上昇を続けていることも、設備投資の増加を支援する材料となる。個人消費や住宅投資が消費税増税後の反動減を避けられないなか、設備投資が増税後の成長のドライバーになるとみている。

図表1：機械受注の概況（季節調整済み前月比、%）

	2013年												2014年 1月	
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
民需（船電を除く） コンセンサス DIR予想	4.2	14.2	▲ 8.8	10.5	▲ 2.7	▲ 0.0	5.4	▲ 2.1	0.6	9.3	▲ 15.7	13.4	7.1	10.2
製造業	4.9	13.3	▲ 7.3	3.8	2.4	4.8	0.8	4.1	▲ 0.2	6.0	▲ 17.3	13.4	13.4	
非製造業（船電を除く）	0.3	14.3	▲ 6.0	25.4	▲ 17.5	0.0	6.2	▲ 7.0	11.5	8.1	▲ 17.2	12.1	12.1	
外需	1.0	52.1	▲ 19.9	10.3	▲ 16.7	1.4	22.4	12.1	▲ 16.0	▲ 12.2	8.6	2.7		

（注）コンセンサスはBloomberg。

（出所）内閣府統計、Bloombergより大和総研作成

1月の機械受注は市場予想を上回る大幅な増加

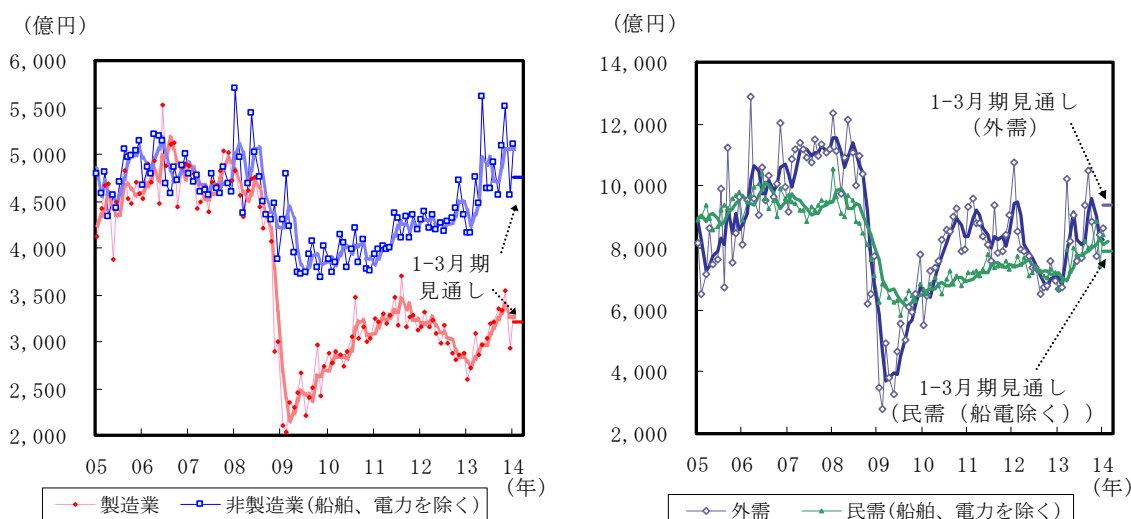
2014年1月の機械受注統計によると、国内設備投資の先行指標である民需（船舶・電力を除く）は、前月比+13.4%と2ヶ月ぶりに増加し、市場コンセンサス（同+7.1%）を大幅に上回る結果となった。3ヶ月移動平均値で見ても2ヶ月ぶりの増加となっており、前月一時的に減少したものの、機械受注は増加基調にあることが確認された。

非製造業では幅広い業種で増加

需要者別に内訳を見ると、製造業は前月比+13.4%と2ヶ月ぶりに増加した。前月の大幅な減少を概ね取り戻した格好だ。製造業で前月から増加した業種を見ると、電気機械（前月比+29.1%）、化学工業（同+35.4%）、非鉄金属（同+124.4%）などの増加が全体を押し上げた。化学工業については前月の大幅減を取り戻す増加を示したが、電気機械については取り戻すことができず、やや物足りない印象である。また、非鉄金属については特殊要因の可能性がありやや割り引いて見る必要があるだろう。

非製造業（船舶・電力を除く）は前月比+12.1%と2ヶ月ぶりに増加した。業種別に見ると、金融業・保険業（前月比+42.5%）、運輸業・郵便業（同+25.9%）、通信業（同+15.1%）、農林漁業（同+21.4%）が増加したことで、全体が押し上げられた。非製造業では、幅広い業種で前月から増加しており、良好な結果であった。

図表2：需要者別機械受注（季節調整値）

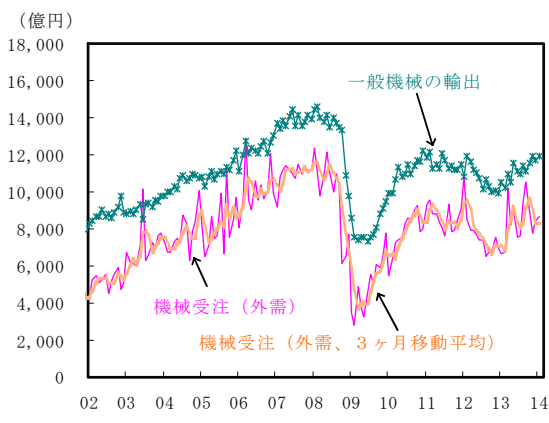


(注) 太線は3ヶ月移動平均線。
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

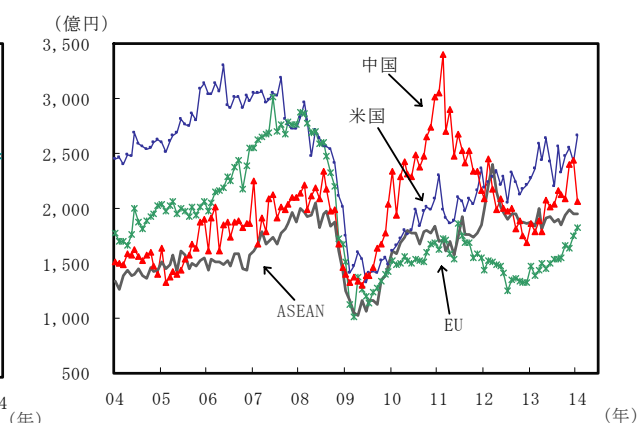
外需は2ヶ月連続の増加

外需は前月比+2.7%と2ヶ月連続で増加した。均して見ると、横ばい圏の動きとなっているが、海外経済の回復に伴い、今後増加基調が明確となる見込みである。一般機械輸出の動向を見ると、景気の回復が続く米国、EU 向けが堅調な推移を示している。中国向けは春節の影響で一時的に減少しているものの、増加基調が続くとみている。また、ASEAN 向けについては、緩やかながら持ち直しの動きを見せている。

図表3：一般機械の輸出と機械受注の外需 図表4：一般機械の輸出金額（主要国・地域）



(注) 季節調整は外需は内閣府、一般機械輸出は大和総研。
(出所) 内閣府、財務省統計より大和総研作成

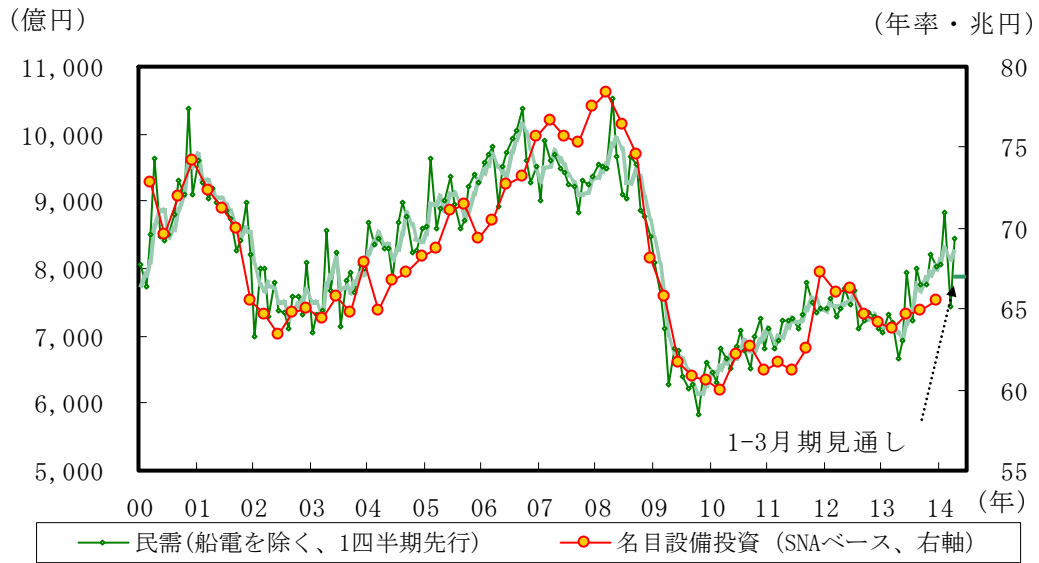


(注) 季節調整は大和総研。
(出所) 財務省統計より大和総研作成

機械受注は1-3月期も増加が続く公算

内閣府公表の2014年1-3月期見通しでは、民需（船舶・電力を除く）は前期比▲2.9%と4四半期ぶりの減少を見込んでいる。ただし、2月と3月にそれぞれ前月比▲3.8%の減少でも、2014年1-3月期に前期から増加する計算となる。このため、大和総研では、機械受注は2014年1-3月期も増加を続けるとみている。製造業、非製造業とも企業業績が明確に改善していることや、稼働率が上昇を続けていることも、設備投資の増加を支援する材料となる。個人消費や住宅投資が消費税増税後の反動減を避けられないなか、設備投資が増税後の成長のドライバーになるとみている。

図表5：機械受注の民需と名目設備投資（季節調整値）

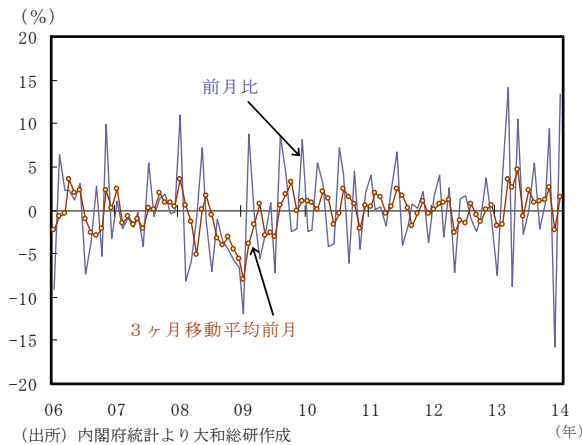


(注) 太線は3ヶ月移動平均線。

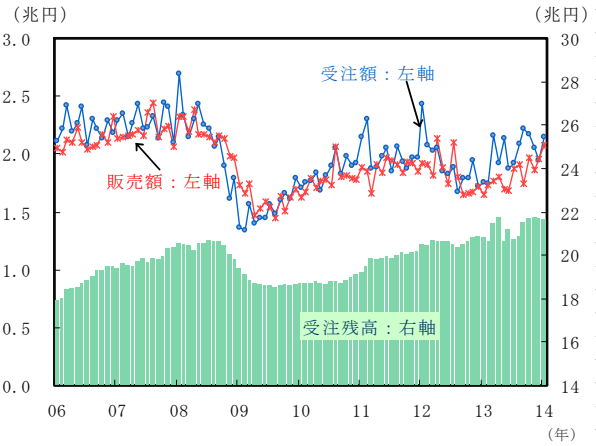
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

概況

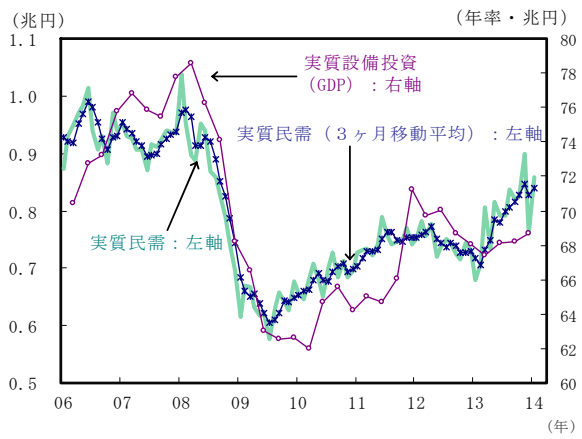
民需（船舶・電力を除く、季節調整済み前月比）



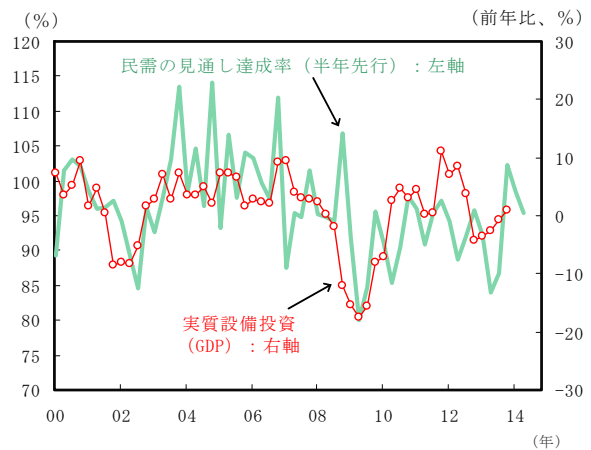
船舶を除く合計（季節調整値）



実質機械受注と実質設備投資（季節調整値）

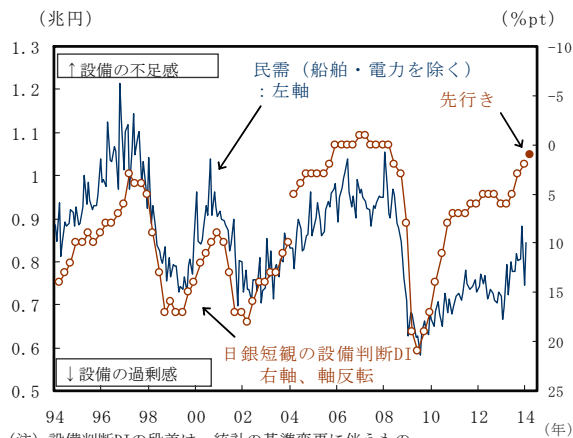


民需（船舶・電力除く）の達成率と実質設備投資



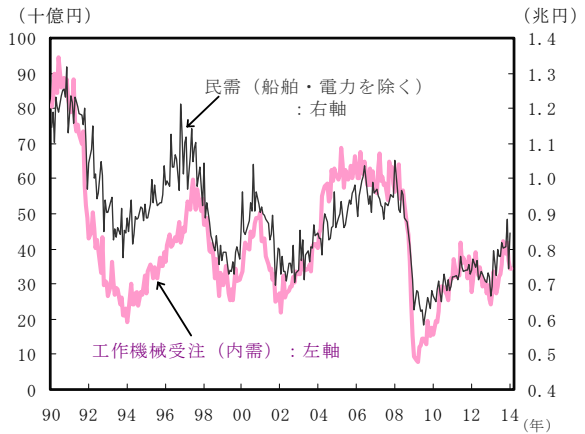
(注) 実質民需は、船舶・電力を除くベースで、企業物価指数（日本銀行）の国内資本財によって実質化。
(出所) 内閣府、日本銀行統計より大和総研作成

機械受注（季節調整値）と設備判断DI



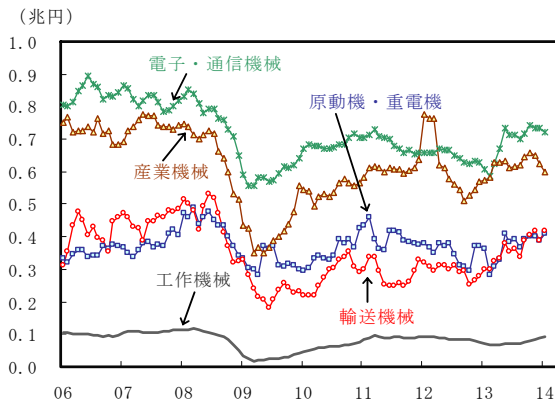
(注) 設備判断DIの段差は、統計の基準変更に伴うもの。
(出所) 内閣府、日本銀行、日本工作機械工業会統計より大和総研作成

機械受注と工作機械受注



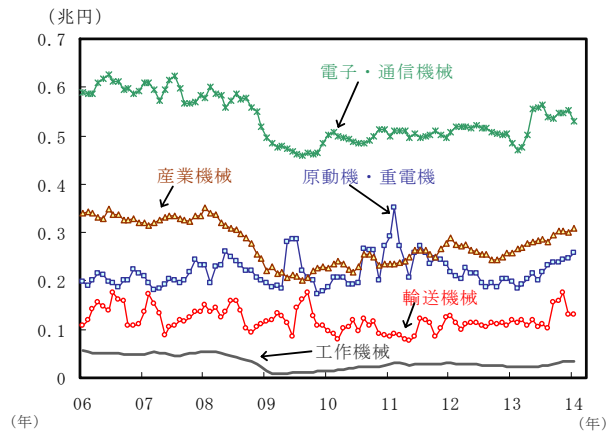
機種別と製造業・非製造業の動向

機種別・大分類の受注額（季節調整値）

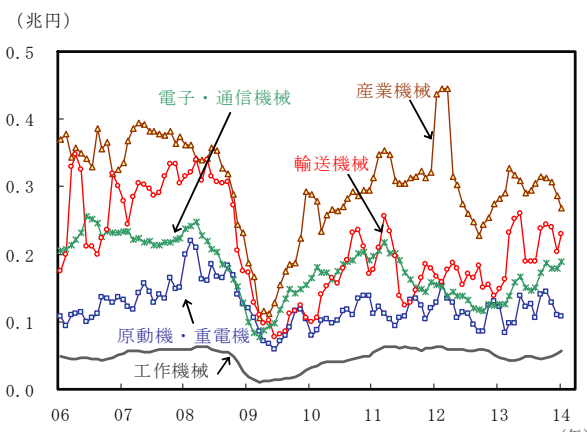


(注) 3ヶ月移動平均値で、季節調整は大和総研。
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

機種別・大分類の受注額【内需】（季節調整値）

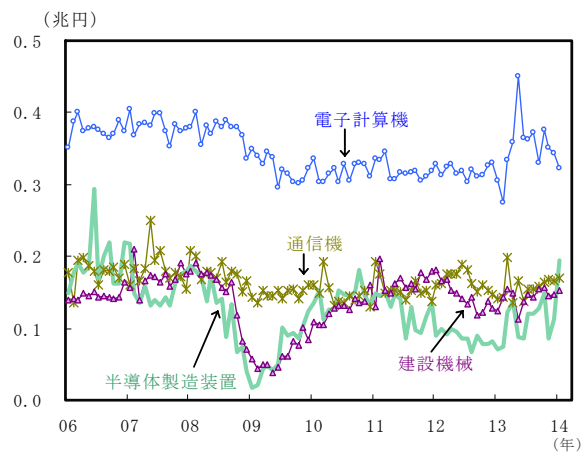


機種別・大分類の受注額【外需】（季節調整値）

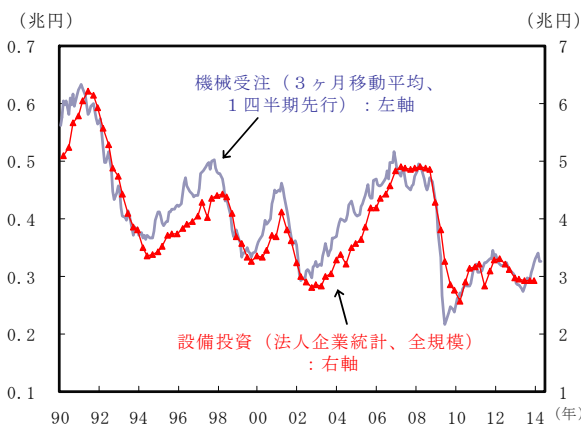


(注) 3ヶ月移動平均値で、季節調整は大和総研。
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

機種別・主な中分類の受注額（季節調整値）



機械受注と設備投資【製造業】（季節調整値）



(出所) 内閣府、財務省統計より大和総研作成

機械受注と設備投資【非製造業】（季節調整値）

